



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月10日

上場会社名 愛眼株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9854 URL <https://www.aigan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々 昌俊
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 佐々 雅彦 TEL 06-6772-3383
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	11,648	3.0	186	—	235	—	166	—
2025年3月期第3四半期	11,304	0.6	△87	—	△37	—	△60	—
(注) 包括利益	2026年3月期第3四半期 350百万円 (—%)		2025年3月期第3四半期 △57百万円 (—%)					

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	8.57	—
2025年3月期第3四半期	△3.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	14,466	12,362	85.5
2025年3月期	13,854	12,011	86.7
(参考) 自己資本	2026年3月期第3四半期 12,362百万円		2025年3月期 12,011百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	0.00	—		
2026年3月期 (予想)				0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,789	6.2	222	—	271	—	149	—	7.72

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	21,076,154株	2025年3月期	21,076,154株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	1,669,439株	2025年3月期	1,669,131株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	19,406,945株	2025年3月期3Q	19,407,147株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	8
(四半期連結損益計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果を背景に、緩やかな回復基調となりました。個人消費については持ち直しの動きがみられる一方、米国の通商政策の影響や物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響等も、景気を下押しするリスクとなっており、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、「お客様の暮らしを、より快適に、より豊かにする企業となること」を目指し、安心の技術、納得の商品、気持ちに寄り添うサービスを提供します。」を経営方針に掲げ、「目と耳の健康を守る」ことを社会的使命・責任と位置づけ、顧客体験価値の最大化に努めております。また、業務効率化、働き方改革、女性活躍推進等の組織・人材面の施策も推進し、柔軟かつ積極的な組織づくりに取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は11,648百万円（前年同四半期比3.0%増）となりました。売上総利益率は、商品仕入コストの上昇、割引セールやポイント付与サービス等の販売戦略上の影響を受け、一時的に利益が圧迫される側面もありましたが、一部商品の価格改定や品目別売上構成比の変化により0.8ポイント上昇しました。経費面では、広告宣伝費や人件費等主要な運営コストの上昇があったものの、改装費用の圧縮や経費コントロールに努めた結果、販売費及び一般管理費は7,827百万円（前年同四半期比0.7%増）となり、売上高販管費率は前年同四半期より1.6ポイント改善し、67.2%となりました。

この結果、営業利益は186百万円（前年同四半期は営業損失87百万円）、経常利益は235百万円（前年同四半期は経常損失37百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は166百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失60百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、「海外眼鏡販売事業」の報告セグメント区分を廃止しております。これは、前第2四半期連結会計期間において、海外眼鏡販売事業から撤退したことによるものであります。これにより、第1四半期連結累計期間より、「眼鏡小売」及び「眼鏡卸売」の2つの報告セグメント区分となっております。

[眼鏡小売事業]

国内眼鏡小売事業につきましては、長年培ってきた視力・聴力補正技術や高い専門性を要する商品提案力、接客・サービス力を結集した「愛眼ブランド」の信頼性と独自性の向上に取り組んでおります。

販売促進面につきましては、お客様視点を第一とした商品開発に注力し、高品質で満足度の高い商品ラインナップを充実させました。さらに、新聞折り込みチラシ・DM・雑誌・動画・WEB広告・各種SNS等、複合的なメディアを活用した情報発信や、店舗特性に応じたマーケティング施策の強化によりブランド認知度向上を図っております。店舗オペレーションではタブレット端末や接客サポートシステム等のDX推進により効率性向上と顧客接点拡大に努めております。ネット通販事業につきましては、自社ECサイトに加え楽天市場ECモールへの出店や取扱商品の拡大に注力しております。

人材教育面につきましては、従来の教育指導に加え、2022年創設の国家検定資格である「眼鏡作製技能士」の資格取得を推進し、また、補聴器技能者育成のため「認定補聴器技能者」の資格取得にも注力しております。

売上高につきましては、社会経済活動の正常化に伴い人流が回復し、全体では前年同期比で増収となりました。主力品目の眼鏡は前年同四半期比で3.5%の増収となり、準主力品目の補聴器はお試しレンタルやアフターサービスが好評で前年同四半期比で7.0%の増収となりました。同じく準主力品目のサングラスは、猛暑の中で紫外線対策に対する関心が増えたものの、同業他社との競争の激化等の影響があり、前年同四半期比で若干の増収にとどまりました。

店舗につきましては、既存店舗のスクラップ&ビルドにより神奈川県海老名市、岐阜県山県市、京都府城陽市、大阪府大東市に各1店舗、計4店舗を新規出店しました。また、出店するショッピングセンターの閉館や館内のゾーニング変更等により5店舗を閉店、既存店の活性化を目的とした改装を8店舗で実施しました。

この結果、売上高は11,373百万円（前年同四半期比3.5%増）、セグメント利益は187百万円（前年同四半期はセグメント損失69百万円）となりました。

〔眼鏡卸売事業〕

眼鏡卸売事業につきましては、新商品の投入や販売支援による既存取引先との関係強化、新規取引先の開拓に努めております。

この結果、売上高は274百万円（前年同四半期比11.5%減）、セグメント損失は2百万円（前年同四半期はセグメント損失5百万円）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は14,466百万円（前連結会計年度末比4.4%増）となりました。流動資産は、商品及び製品の増加、売掛金の増加、現金及び預金の減少等により7,733百万円（前連結会計年度末比4.6%増）となり、固定資産は、投資有価証券の増加等により6,732百万円（前連結会計年度末比4.2%増）となりました。また、負債合計は、支払手形及び買掛金の増加、繰延税金負債の増加、流動負債その他に含まれる預り金の増加、流動負債その他に含まれる未払金の増加、未払法人税等の減少、契約負債の減少等により、2,103百万円（前連結会計年度末比14.1%増）となり、純資産合計は12,362百万円（前連結会計年度末比2.9%増）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の経営成績及び足元の状況を踏まえて、2025年5月12日の「2025年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

なお、連結業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の基準に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,299	4,260
受取手形	4	※7
売掛金	773	829
商品及び製品	2,073	2,427
原材料及び貯蔵品	38	33
その他	204	175
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	7,393	7,733
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,030	1,033
土地	1,799	1,799
その他(純額)	219	240
有形固定資産合計	3,049	3,073
無形固定資産		
ソフトウェア	14	14
その他	0	2
無形固定資産合計	15	17
投資その他の資産		
投資有価証券	604	866
敷金及び保証金	2,484	2,516
その他	307	258
投資その他の資産合計	3,396	3,642
固定資産合計	6,461	6,732
資産合計	13,854	14,466

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	356	※ 517
未払法人税等	153	115
契約負債	331	287
賞与引当金	27	27
その他	467	583
流動負債合計	1,336	1,531
固定負債		
繰延税金負債	97	181
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	331	331
その他	70	52
固定負債合計	506	572
負債合計	1,843	2,103
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	2,894	3,060
自己株式	△1,051	△1,051
株主資本合計	14,283	14,449
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	199	383
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
その他の包括利益累計額合計	△2,271	△2,087
純資産合計	12,011	12,362
負債純資産合計	13,854	14,466

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	11,304	11,648
売上原価	3,619	3,635
売上総利益	7,684	8,013
販売費及び一般管理費	7,772	7,827
営業利益又は営業損失(△)	△87	186
営業外収益		
受取利息	2	7
受取配当金	15	11
保険配当金	9	12
受取家賃	28	21
その他	24	15
営業外収益合計	80	69
営業外費用		
固定資産除却損	8	6
賃貸費用	16	11
その他	5	1
営業外費用合計	30	19
経常利益又は経常損失(△)	△37	235
特別利益		
投資有価証券売却益	39	25
在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩益	36	—
特別利益合計	75	25
特別損失		
減損損失	※ 33	※ 9
投資有価証券評価損	—	5
特別損失合計	33	14
税金等調整前四半期純利益	5	247
法人税、住民税及び事業税	64	79
法人税等調整額	1	1
法人税等合計	66	80
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△60	166
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△60	166

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△60	166
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	39	184
為替換算調整勘定	△35	—
その他の包括利益合計	3	184
四半期包括利益	△57	350
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△57	350
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
受取手形	一百万円	0百万円
支払手形	—	39

(四半期連結損益計算書に関する注記)

※ 減損損失

前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

当社グループは、減損損失を認識するにあたり、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として営業店舗、共用資産として本社設備等をグルーピングしております。

減損損失の認識に至った経緯として、昨今の競争激化等により店舗等の収益性が低下しているため、資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失 (33百万円) として計上しております。

場所	用途	種類	金額
大阪府等	店舗	建物及び構築物	32百万円
		その他	1百万円
合計			33百万円

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、重要性の高い土地・建物については不動産鑑定士による不動産鑑定評価額に基づき評価しております。また、その他の土地については路線価による相続税評価額に基づき評価し、その他の資産については、処分見込価額としております。

当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

当社グループは、減損損失を認識するにあたり、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として営業店舗、共用資産として本社設備等をグルーピングしております。

減損損失の認識に至った経緯として、昨今の競争激化等により店舗等の収益性が低下しているため、資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失 (9百万円) として計上しております。

場所	用途	種類	金額
大阪府等	店舗	建物及び構築物	9百万円
合計			9百万円

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、重要性の高い土地・建物については不動産鑑定士による不動産鑑定評価額に基づき評価しております。また、その他の土地については路線価による相続税評価額に基づき評価し、その他の資産については、処分見込価額としております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	海外眼鏡販売 (注) 3			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	10,993	310	0	11,304	—	11,304
外部顧客への売上高	10,993	310	0	11,304	—	11,304
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	43	—	43	△43	—
計	10,993	353	0	11,348	△43	11,304
セグメント損失(△)	△69	△5	△8	△83	△4	△87

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△10百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. 「海外眼鏡販売」セグメントである北京愛眼眼鏡有限公司は、中間連結会計期間において清算が終了いたしました。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:百万円)

	眼鏡小売	眼鏡卸売	海外眼鏡販売	全社・消去	合計
減損損失	33	—	—	—	33

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売			
売上高					
顧客との契約から生じる収益	11,373	274	11,648	—	11,648
外部顧客への売上高	11,373	274	11,648	—	11,648
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	39	39	△39	—
計	11,373	314	11,688	△39	11,648
セグメント利益又は損失(△)	187	△2	185	0	186

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△5百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	眼鏡小売	眼鏡卸売	全社・消去	合計
減損損失	9	—	—	9

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において、「海外眼鏡販売」セグメントである北京愛眼眼鏡有限公司の清算が終了したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、「海外眼鏡販売」セグメントを廃止しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	129百万円	125百万円